# 広報ナガヤマのおきこぼ日誌

Vol.2

## 僕にとっての「写真」

写真を始めて15年ほどになりますが、撮影をしていく中で最も怖いのは「慣れてしまうこと」だと思っています。よく「初心を忘れない」と言いますが、いつも新鮮な気持ちで被写体と向き合うには、経験に頼るのではなく、素直な「童心」を持ち続けられるかどうかがカギになるかと。

いきいきとした表情や場面を撮るには、僕の心も同じように「躍動」している必要があり、何も感じていないのにただシャッターを切ってしまえば、せっかく目の前にある素晴らしい「瞬間」を写真に収めることはできないと感じています。

いつも「新鮮な気持ち」でいる事は言うほど簡単ではありませんが、素晴らしい被写体である「人」を撮らせていただく事の幸せを感じながら、これからもシャッターを切っていきたいと思っています。

広報担当　永山健一

初めて撮った紅葉

## 〈健康講座〉を再開しました

健康講座プロジェクトチーム：緒方由美子

12月1日、約4年ぶりとなる「健康講座」を富田町病院で開催いたしました。

久しぶりの再開となる今回の講座は、とんだ訪問看護ステーションの高井看護師から「人生会議ってなに?～自分の想い、誰かに伝えていますか～」というテーマでお話いただきました。

「人生会議」とはACP（アドバンス・ケア・プランニング）の愛称で、自分の大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自ら考え、また、周囲の信頼している人たちと話し合うことを言います。人生会議という言葉を初めて聞いた方も多かったようですが、高井看護師が訪問看護で出会ったケースを交えながらのお話はとても分かりやすく、心に響きました。

「家に帰ったら一度自分で考えてみたい」「さっそく家族と話してみようと思う」などのお声も多く、みなさんが人生会議をするきっかけになったのではないでしょうか。

最後は木村クリニック通所リハビリのスタッフのお手本に合わせて、みんなでストレッチ。頭と体をほぐしてスッキリしてお帰りいただきました。

今回は満員のお申込みをいただき大盛況の講座となりました。たくさんのご来場ありがとうございました。来年度も健康講座を企画する予定ですので、次の機会もぜひお楽しみに…。

健康会からのお知らせ

元気に暮らし続けるための「秘訣」を楽しく一緒に学べる講座です。

## 健康会［つながり講座］のご案内

**テーマ**

「冬を元気に乗り切るために気をつけたいこと」

おはなし：富田町病院看護部長 永久教子さん

**日時**　2024年2月9日（金曜日）
午前10：00～12：00

**場所**　富田団地集会所 大ホール
（牧田郵便局前の建物２階です）
エレベーターで２階へお上がりください。

詳しくはお電話にてお問合せください　TEL.072-690-1700

※各種イベントにご参加の方… 当日はご自宅での検温と、マスクの着用にご協力ください。

医療法人 庸愛会・社会福祉法人 健康会　広報誌［かなえ］Vol.14（新年号）
2024年 1月15日 刊行／発行者：庸愛会・健康会広報委員会　〒569-0814 高槻市富田町6丁目10-1　TEL.072-696-7754　FAX.072-696-2624

庸愛会＆健康会 広報誌

ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます。

# かなえ

Vol.14 新年号

新年あけましておめでとうございます。新しい年のスタートです。
今年1年が皆さまにとって最良の年となりますように願っています。
庸愛会は富田町病院の病床再編、健康会は地域活動の再構築が
今年の大きな課題だと考えています。地域の方々と各医療機関や
介護事業所、保育園と協同で住み慣れた地域で暮らせる街づくりが
出来ればと思います。今年もよろしくお願い致します。

社会福祉法人健康会 理事長
医療法人庸愛会 事務長
上井　茂

医療法人 庸愛会　社会福祉法人 健康会

# 変化のなかでも、変わらない『つながり』をつくりたい

健康会 統括部長　井田郁子
健康会 通所課長　宮田珠代里
健康会 訪問課長　小野恵美子

今回は、医療法人庸愛会（以下、庸愛会）の姉妹法人である
社会福祉法人健康会（以下、健康会）のリーダーの皆さんにお集まりいただき、
それぞれの事業所のことや、これから目指すものについてお話しいただきました。

## 前号から、広報誌「かなえ」が庸愛会と健康会の合同での発行になりましたね

井田：健康会は、富田団地のちょうど真ん中に位置するところで牧田町ケアセンター（デイサービス）、牧田町ケアプランセンター、牧田町ヘルパーステーションを、富田町病院の前身である富田町診療所があった場所でそらいろ保育園を運営しています。2015 年に健康会を立ち上げましたが、もともとは庸愛会の一員として仕事をしてきました。「かなえ」の再開に合わせた両法人合同での地域に向けた発信のスタートは、とても自然でうれしいことだと思っています。

## 皆さんの現場のことをお話しください

宮田：牧田町ケアセンターは、富田団地で孤独死があったことなどをきっかけに、「高齢者が安心できる居場所を」と 2002 年にスタートしたデイサービスで、私たち３人もその頃に入職しました。ずっと大切にし続けていることは、笑い声の絶えない場づくりです。介護度もそれぞれ、体調や心の状態も日によってさまざまですが、それでも「笑って帰ってもらう」ことをみんなで目指しています。厨房で手作りした昼食も私たちの「売り」のひとつです。

小野：私たちは利用者さんのご自宅に出向いて暮らしを支える役割です。食事や排泄を直接介助したり、洗濯や掃除、調理などの家事を援助していますが、なにより「コミュニケーション」を大切にしています。社会との唯一の接点が私たちヘルパーだという方もおられるので、「定期的に顔を合わせて話ができる人がいる」ことが利用者さんの心の健康を支えて、生きる活力につながってほしいと思っています。

井田：ケアマネージャーは介護保険サービスや、それ以外のサービスを組み合わせて「その人が、その人らしく、そこで暮らせる」ことを支援します。最近は早い段階で施設に入所される方も少なくないし、難しいことも多いですが、型にはめたプランではなく、地域のいろんな資源を使って「こんなふうに暮らしたい」を実現したいと思っています。
そして、高齢者に向けた事業所を運営してきた私たちがそらいろ保育園をつくったことは大きな挑戦でしたが、「一人ひとりの大切さ」は高齢者も子どもたちも同じで、定員 40 人の小規模保育園だからこその目配りと気配りをしながら、「みんなで一緒に育ちあう」ことを応援しています。

## それぞれの事業だけでなく、「健康会全体」として取り組まれていることはありますか？

宮田：ケアセンター開所当初から「地域交流委員会」をつくり『つながり』という広報紙を自分たちで書いて印刷し、富田団地全戸のポストに届けることを続けてきました。そこから発展して、「つながりサロン」（団地の集会所をお借りして参加者みんなで主に手芸を楽しみます）、「つながり講座」（富田町病院の看護師さんなどから「健康」についてのお話を聴きます）や、年２回の「つながりバザー」など、「みんなでつながりあう」ための取り組みをしています。特に富田団地自治会夏祭りへの参加は開所の翌年からずっと続けていて、歴代いろんな模擬店で好評をいただいています。

大切にし続けていることは
笑い声の絶えない場づくり。
「笑って帰ってもらう」ことを
みんなで目指しています！

井田：そらいろ保育園も地域との交流を日々の保育のなかで大切にしています。コロナの影響もあったので、園舎をつかって地域のみなさんと交流する大きなイベントはまだできていませんが、たとえば「いつものお散歩コース」の公園で地域の子どもたちと一緒に遊び、そこに来ているお母さんと保育士とが自然に出会い、さりげない会話のなかで小さな「子育て支援」ができているのはとても素敵なことだと思います。

## 「つながり」というキーワードは庸愛会との間にも通じますね

井田：もちろんそうです。健康会を立ち上げて法人理念をどうするか考えたとき、庸愛会と同じ「ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます」にすることに迷いなく行き着きました。「ずっと一緒にやってきたし、これからもそうだから、目指すところは同じだ」と再確認しましたね。

小野：どの現場でもいろんな突発的なことは起きますが、ヘルパーが利用者さん宅で「１対１」の状況下で体調の変化に直面したとき、訪問診療や訪問看護で庸愛会が関わってくれていると、現場から直接相談の電話ができる「つながり」があるという心強さは私たちの大きな支えになります。

さりげない会話のなかで
小さな「子育て支援」が
できているのはとても
素敵なことだと思います。

「この仕事は
やりがいがあって、
自分を成長させてくれる」
という発信をもっと
やっていきたいです。

宮田：富田町病院は「大き過ぎない」からいいと思うんです。困ったときに相談できる「身近さ」がとてもありがたいです。そして「小さ過ぎない」ことが尚いいと思います。外来があり、訪問診療もあり、入院もできて、訪問看護ステーションも一緒になっていますよね。「在宅」を支える側の私たちにとって、何より利用者さんやご家族にとって、この「つながり」の安心感はとても大きくて、「切れ目のない医療と介護」とよく言われていますが、「こういうことだよな」と思います。

## 「この先」をどんなふうにイメージしていきたいですか？

宮田：私たちは、人と人とのつながりを大切に、地域の高齢者にとっての「なじみの人」、「なじみの場所」であることにこだわってきました。それはこれからも同じですが、家族のかたちも含め様々な変化がある中で、私たちに求められること、すべきことを考えていく時だと思います。

小野：利用者さんにも、ご家族にも安心してもらえるサポート体制を具体的につくっていきたいですね。それと、これからの介護や保育を担う人材を育てていくことが切実な課題だと思います。「この仕事はやりがいがあって、自分を成長させてくれる」という発信を法人全体としてもっとやっていきたいと思っています。

井田：高齢者だけでなく、あらゆる世代の孤独をなくしていきたいと思うんです。そのために、保育園も含めてもっともっとできることはあると思います。あんなこと、こんなこと、イメージはいっぱい温めてきたので、みんなでつながりあって、それを一つずつかたちにしていきたいです。

顔が見えて、「独りじゃないよ」と思える「つながり」をいろんな職種の人たちと、何より地域住民のみなさんと一緒につくっていくことがより一層求められていると思います。
健康会と庸愛会、同じ理念を大切にしながら、この広報誌をとおして、もっと発信していきましょう。

聴き手：平田
撮　影：永山
まとめ：永久
（いずれも広報委員）